

職員の皆様へ

職員の皆様こんにちは。この度の人事により施設長に着任致しました早川秀敏でございます。もとより微力の上、すでに孫六人の前期高齢者の仲間入りしておりますので、果たして役に立つものやら不安ですが職員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

初めて出会う職員の方もいらっしゃいますので簡単に自己紹介をしますと、一九五二年一月一五日生まれ。家は原田（ブティック？山下商店の裏）です。

仁万の里が出来る前は、障がいの重い子供達を対象とした訪問教育に携わり隠岐養護学校にも一年間おりました。仁万の里には、一九八〇年に開設と同時に採用され、二〇一年三月まで勤めさせていただきました。仁万の里を退職したあとは、この三月まで、隠岐養護学校の就労コーディネーターや、海士町の社会福祉法人「だんだん」障がい者部門コーディネーターなど、障がい福祉分野に関わってはりましたが、またこうやって仁万の里で皆様と出会えたことは、何かの縁があったことだろうと感じています。

障がいのある仲間たちや保護者の皆様方と、そして私たち職員ひとり一人が、この「仁万の里でお互いに出会えて良かったね！」という関係で仕事ができたらいいな！と思っております。

さて、仁万の里の体制や取り巻く環境は、近年大きく動いてまいりました。二〇一一年からは障がい者福祉事業が新しい法体系に移行され、従来の「授産作業」が「B型事業」へ、「更生作業」が「生活介護事業」へ等々、事業変更がなされました。そして、開設から三〇年以上が経ち、老朽化が著しかった入所施設の建物も二〇一四年に新築され、同年には公立施設からの民営化。仁万の里は島根県でただ一つ公立施設として存続していましたが、民営化への時代の流れの中、隠岐広域連合から社会福祉法人「博愛」に指定管理として運営が移行されました。私は、これらの方向性がほぼ決定した時期で退職をした訳ですが、そのあとの短い間に大きく変容してきた期間、仁万の里の仕事に携わられてきた職員の皆様はさぞかし大変だっただろうと敬意を表します。

現在、仁万の里の事業体系もほぼ固まってきました。すでに“新生”仁万の里も動き始めておりますが、このあたりで少し落ち着きを取り戻し、障がい福祉の根本的な部分からもう一度みんな考えて合っていけたらと考えています。歳と共に弱くはなりませんが酒も大好きです。ゲストハウス『川秀』でもある私の家で飲みながらの福祉談議も大好きです。どうぞお出で下さいませ！

この「はやかわ便り」は、私が前仁万の里所長時代に全職員向けに発行してきました。以前のように毎週発行とはならないかも知れませんが、職員の皆様と想いを共有する一つの手段として「パートⅡ」で再発行していきたいと思えます。もともと体育学部卒なので文章力はなく拙文となりますがお許しくださいませ。

なお、私が書くだけでは一方通行になりがちですので、読まれた感想や意見をどんどんいただいたり、時には皆様からの記事の参入も大歓迎ですのでお願い致します。

はやかわ便りⅡ一号 一七・四・一〇